

(メッセ海外通信 2007年4→6月号掲載記事)

～世界の友と語り合うために～
青島国際ビール祭り

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
磯田 将史

中国には、「友と酒を飲めば、海の量ほど飲んでも酔うことはない」という言葉があります。大好きな友人と語り合う時間を特に大切にしている中国ならではの表現です。そして、「地域を、国境を越えて、さらに多くの友と語り合いたい」、そうした人々の願いから始まったイベントが、この「青島国際ビール祭」です。

このイベントは、青島ビールの発祥地であるここ青島に、世界数十社のビールメーカーが一同に介して行われる青島最大のイベントです。

青島は、近年中国内外からの観光客が急激に増加した街として知られ、2006年の国内外観光客数は2,886万人、市の観光総収入は約5,632億円でした。そのなかで、海外からの観光収入は約597億円にのびります。

こうした国際観光都市となった背景には、大規模な商業PRイベントの成功が挙げられます。その代表的なものがこの「青島国際ビール祭」です。

青島ビールは、約100年前にこの地を占領していたドイツの醸造技術と、市近郊の湧き水から生まれました。会場では、その日製造された樽生が用意され、日本で飲まれている青島ビールと比較にならないまろやかな味を体験できます。また、会場に用意された数十種類の世界各国のビールも、そのほとんどが樽生で用意されており、ビール好きにはこたえられないイベントです。

1991年以来、毎年8月中旬から約2週間にわたって行われ、期間中は、青島各地でオーケストラによるコンサート、ビールカーニバルパレード、花火大会などが催され、大勢の市民や観光客で賑うほか、旧市役所・新市役所・五四広場など市内各地が美しくライトアップされます。



青島ビール祭りでは、早飲み競争、海量競争（どれだけ飲めるかを競うもの。中国では、酒豪を「海量」と呼んでいます。）などおなじみの（？）イベントも数多く行われ、会場をうめる国内外からのお客さんが、文字通り「海の量」ほどビールを飲み、言葉が通じないながらも、いっしょに楽しむ風景が随所に見られます。

「青島国際ビール祭」は、8月11日（土）～26日（日）に行われます。日中両国では、日中国交正常化35周年を迎える本年を「日中文化・スポーツ交流年」と定めており、ここ青島でも「国をあげて、日本の友人の皆様のお越しを心より歓迎したい」という雰囲気強く感じることができます。

皆さん、日本の暑い夏を少し忘れて、青島国際ビール祭で世界の樽生ビールを片手に、世界の友人たちと語り合ってみませんか？